

第20回 市長と話そうの様子

開催日時	2026年1月21日(水) 13:30 ~ 15:00	場所	臼杵市役所 臼杵庁舎 大会議室
団体名	公益社団法人 認知症の人と家族の会 大分県支部 臼杵地域		
団体概要	認知症の本人と介護家族へのサポートを下記の支部活動の3つの柱を中心に実施。 ①集いで、仲間と交流する ②会報で学び、癒される ③電話相談 臼杵市では、毎月第三水曜日にほっと館で介護家族の集いを開催。		
話し合いのテーマ	・臼杵市における認知症施策の展望について		
参加者	18名(団体メンバー17名、西岡市長)		

対話の様子

対話では、臼杵市における認知症施策の展望などについて意見交換が行われました。参加者からは、以下のようなお話やご意見がありました。

[会の活動紹介]

- ・毎月第3水曜日に介護家族同士のピアサポート(経験者による相互支援)を実施。
- ・7~12月は「家族支援プログラム」として、認知症の基礎知識、防災・避難、終活などテーマを決めた学びの場を開催。

[ご意見等]

- ・本会の発足当初は、現役の介護者や過去に介護を経験された方の参加が主流だったが、現在は将来への備えとして学ぶ層が中心となっている。一方で、現役の介護者は日中の就労により参加が難しく、本来届くべき層にアプローチできていない点が課題である。
- ・認知症のご家族を持つ世帯は、「災害時に一般避難所へ連れて行ってもよいのか」「どのような避難行動をとればよいのか想像がつかない」といった、災害時の避難所環境や避難行動に対する不安を感じている。
- ・夫の介護を終え、三回忌を迎えた。夫が認知症と診断された当時は非常に辛かったが、その折に「家族の会」を紹介された。参加するまでは疲弊していたものの、会での学びを通じて心境が180度変わった。一人で抱えていた不安も、参加することで心が落ち着き、夫に対して穏やかに接することができた。
- ・認知症に対する正しい理解が広まれば、本人や家族への偏見や接し方も改善されるはずである。そのため、市民全体に向けた啓発活動や学習の機会をより一層拡充する必要がある。
- ・夢物語かもしれないが、認知症の方や高齢者、子どもなど誰もが自由に集い、自由に過ごすことができ、趣味や特技を通じて交流できる「多目的・多世代共生の第三の場所(家庭でも学校でもない居場所)」があれば良いと思う。

市長からは、以下のような話がありました。

- ・臼杵市では2010年に医師会、大学などと連携し「臼杵市の認知症を考える会」を設立し、認知症施策を進めてきた。認知症予防の権威である鳥取大学の浦上克哉教授などをお招きし「臼杵市認知症市民フォーラム」を2年に1回開催している。
- ・市長就任後、職員全員にオレンジリング(認知症サポーターの証)の着用を呼びかけ、認知症理解と住民への優しい対応を促している。
- ・認知症の治療法や治療薬は、以前と比べ進歩しており、進行抑制の可能性も広がっている。「いかに早く病気に気づき、ご本人とご家族がそれを受け入れられるか」が重要だと考えている。地域ぐるみで認知症を受け入れられる環境を作っていきたい。
- ・本日いただいたご意見や課題については、しっかりと受け止めていきたい。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。“市長と話そう”では、市民の皆様の声を聴き、一緒に考え、よりよい臼杵市の未来を描くため、今後もさまざまな団体と対話を行っていきます！

